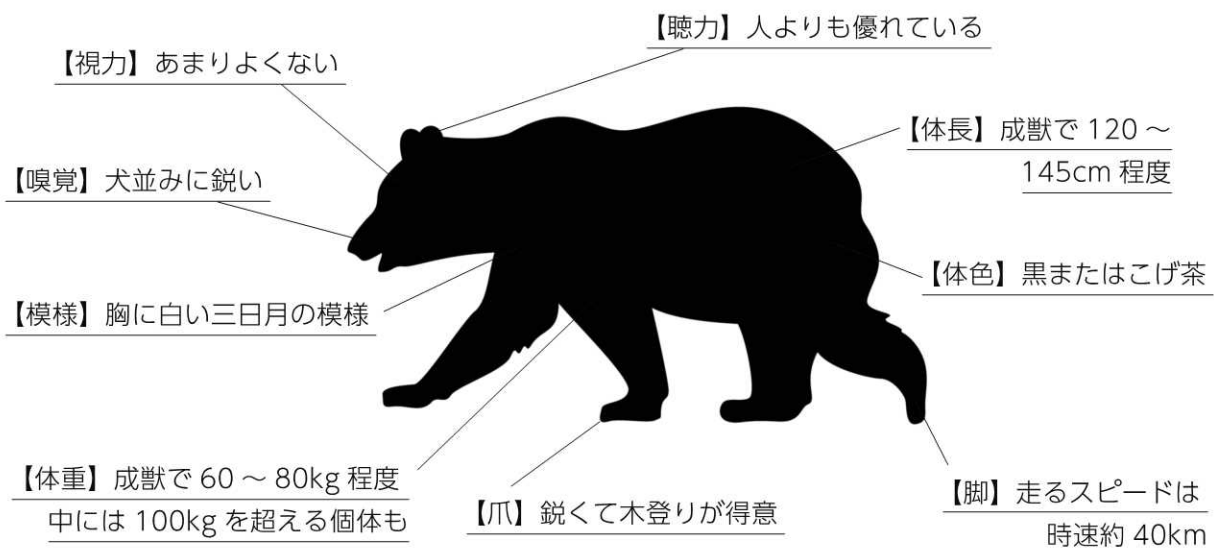
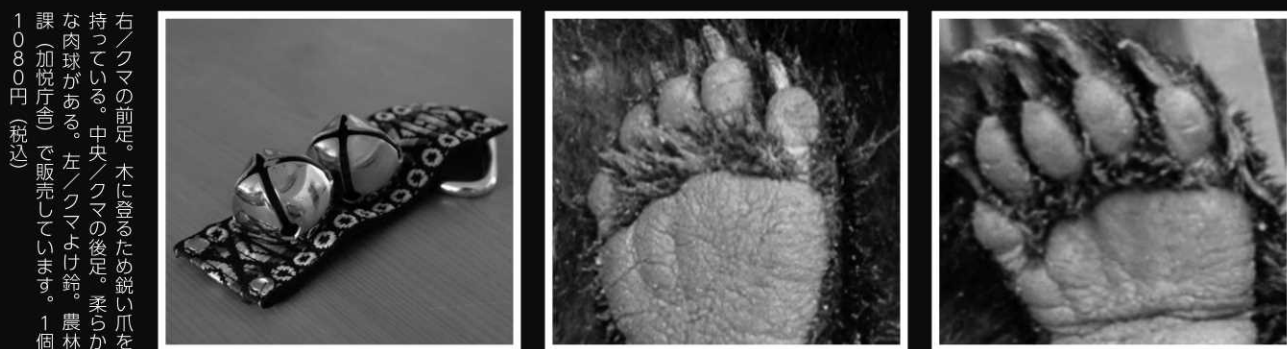


ツキノワグマってどんな動物？



クマに注意

与謝野町では、平成22年と令和2年にツキノワグマ(以下、「クマ」)による人身被害が発生しています。また、昨年には京丹後市でも同様の被害報告がありました。秋になりエサ(柿、栗など)を求めて集落に出没することが予想されます。今月号では、被害にあわないための対策についてお知らせします。



今年も、例年になくまちなかでのクマの目撃情報が多くあります。のだがわこども園、さんさんばーく、旧加悦町役場庁舎付近——。9月22日時点のクマの目撃・形跡情報は41件で、昨年度より増加しています。本来クマは、臆病で人を恐れていると言われていて、しかし、至近距離でばったり出くわしたり、子グマを連れ親グマと遭遇したときは、クマは身の危険を感じ、わが身やわが子を守るために攻撃してくることがあります。特に、冬眠に向けてエサを多く採取する秋は、集落に出没し柿や栗などを好んで食べるため、遭遇する機会が増加します。クマを人間の生活圏から遠ざけ、接触を避けることが重要です。

クマを人里に引き寄せない

- ▼クマが好むものを里に置かない
- ①ごみを野外に置かない
- 生ごみはクマを引き寄せるため、屋外に置かないようにする必要があります。また、田畑への残飯まきや収穫しない作物の放置もクマを引き寄せてしまいます。
- ②果実は放置しない

クマに出会わないために

- ▼クマが活発に行動する朝夕の外出時は、クマよけ鈴やラジオなどで人の存在を知らせたり、2人以上で行動するようにしましょう。また、山に入るときやクマが出没していた場所付近では特に注意が必要です。
- クマに出会ってしまったら
- ▼クマを刺激すると攻撃してくることがあります。叫んだり物を投げたりせず、落ちついて背を向けずにゆっくりと離れましょう。
- ▼子グマに出会ったら近くに親グマがいることを想定し、絶対に近づかず速やかに離れましょう。

京都府におけるクマ

府では、平成15年度にクマの個体数が約300頭になっていることから、府の野生生物種レッドリストで絶滅寸前種に指定。同年11月から狩猟を禁じていました。しかし、令和2年度の個体数調査では約1640頭まで回復していることが分かり、レッドリストで3段階下の要注目種に変更し、令和3年度に狩猟中のクマの狩猟を解禁しています。

クマを人里に引き寄せない対策のイメージ



出典 兵庫県森林動物研究センター

クマの好物の柿や栗は早めに収穫するか、電気柵などで守りましょう。また、収穫する予定のないものは処分する必要があります。

▼ヤブは刈り取る

里と山の間にはクマが隠れるヤブがなくなると、クマは山から出てきにくくなります。また、住居や通路周辺のヤブは刈り取って見通しをよくすることで、遭遇を避けることができます。

KEY WORD 町内のクマ目撃情報

役場に連絡があった数を目撃数としてカウントしています。過去5年間は100件を超える年は少なくなりましたが、平成28年以前は毎年150件を超える目撃数がありました。クマや形跡を目撃されたときは、農林課(☎43-9023)までご連絡ください。

なお、町内でのクマ目撃情報は、町ホームページと農業ポータルサイト「YOSANO AGRICYCLE (https://agricycle.jp/)」のメールマガジンでお知らせしています。

